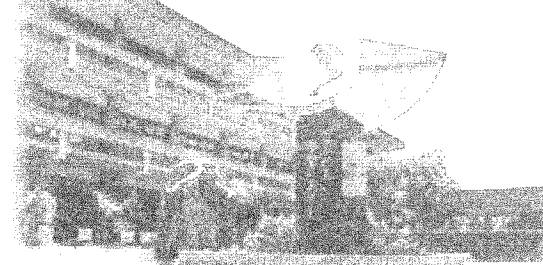


国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人の世に熱あれ 人間に光あれ^⑧ ～仲間と共に希望のゴールへと進む～



1991年度中同研大会公開授業における最後の語りと生活ノート

1991年度板野中学校3年B組が、6月の郡同研（板野郡同和教育研究大会）、10月の全道研（全日本中学校道徳教育研究大会）、そして、この中同研（徳島県中学校同和教育研究大会）へと積み上げてきた語り合いの部落問題学習、その集大成となった中同研での最後の発言と、この公開授業につかんだ思いを誠実の表現した生活ノートである。

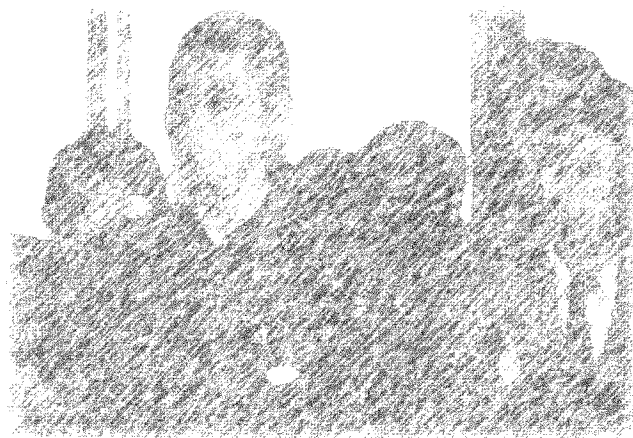
Y・Iの語り「今日灯った部落解放の光と炎（灯火）を差別解消の日まで灯し続けよう」

もう時間がきてしまっていて言いたいのになかなか言えなかった人もいると思うんですよ。だけどこの3年B組だったことを誇りにして、これからもずっと頑張っていきたいと思っています。そして、部落に生まれた人はこれは絶対に隠して悲しんでそれですむ問題じゃないと思います。絶対この問題はおかしいから、絶対立ち向かっていかなければいけないと思います。

そして、先生から聞いたことがあるんだけど、私たちがみんなで燃やし続けた部落差別をなくしていく光と炎（灯火）を絶やすことなくずっと一生持ち続けて、差別解消まで共に向かっていきたいと思っています。

そして、この光と炎（灯火）を大切に燃やし続け、私たちのこれからの人生において出会う人にこの光と炎（灯火）をともし続けて、この差別解消の取り組みをすべての人の願いにしていきたい。そしてそのときには絶対日本から部落差別はなくなっていると思うんです。

だから今ここにおいて先生方も、私たちのこれだけ頑張った姿を見てくれたんだから、この光と炎（灯火）を絶やさずにずっと差別解消の日まで頑張っていきたいと思っています。



H・Iの生活ノート「板野中学校で燃やした炎を誰かにつないでくれたらと思う」

部落問題学習でつかんだもの、それは3年B組という固い団結の絆だと思う。一人一人の悲しみが怒りとなって語り合い、そして支え合っている。

公開授業が終わったとき、男の先生がぼくのところにきて、「頑張ったなあ」と言ってくれた。ぼくはものすごくうれしかった。発表して本当によかったと思った。この先生だけでなくほとんどの先生たちが、この学習の大切さをわかってくれたと思う。この3年B組で、この3年生で、そしてこの板野中学校で燃やしたこの炎を、多くの先生たちが、また誰かにつないでくれたらと思う。

自分の思いを語っていくことによって、自分という人間が変わったと思う。2年生に比べて明るくなったと思うし、物事をよく見るようになった。

そして、朝がさわやかに感じられ、人の優しさというものが見えてきたと思う。今日帰るときコスモスの花が、太陽に照らされていた。まるでぼくに勇気をくれているような気がした。

過去を背負うのではなく未来に希望を持ちながら、頑張っていきたいと思う。これからも悲しさではなくうれしさで、そして嘆くよりも怒る気持ちで、これからも峠を越えていきたいと思う。支え支えられてこれからも、自分というものを見つめて頑張っていこうと思う。

今日帰るとき、女の先生から声をかけられた。「授業、感動しました」と言ってくれた。ぼくは「学校に帰ってからも同和教育頑張ってください」と言った。後でもっといろいろな話をしたらよかったと思った。でも多くの人の心が動いてくれたことがうれしい。こう言ってくれる人たちは学校に帰っても頑張ってくれると思う。ぼくも人任せにならないように頑張っていこうと思います。

果てしない、そして長い道のりをこれからも光をたつぷり浴び、空気を思いきり吸って、仲間と共に歩み、足踏みすることがあっても、弱音を吐かず、希望のゴールへと進む。